

世論はどのようにして作られるか

— 今、報道を考える —

最近マスコミの報道を見聞きしていると、日々の生活の中で私どもが感じている庶民の願いや意思・日本の政治の動きが政府にすり寄った方向で流されているように強く感じさせられます。

マスコミは、国民に種々の判断の基になる真実を伝えることが使命であり責任であると誰もが考えています。

しかし、昨今のようにメディアが揃って権力や経済力に癒着し報道しているのを見ると国民をどこに導こうとしているのだろうかと思心暗鬼にかられます。

私たちはこうした疑問から、マスメディアの実態について知りたいと考え、今回は紙上による報道機関の現況について長年現場の仕事に携わってこられた相原研一氏をお呼びしてお話をお聞きする機会を得ました。

どうぞこの機会に常々疑問に感じておられることなど明らかになさって下さい。

講師：相原 研一氏

と き：2013年5月11日(土) 14時10分～16時00分

ところ：仙台YWCA会館 (1階)集会室

〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-1-10 電話022-222-9714

交通案内：地下鉄北四番丁駅下車。改札口を出て右手の通路の北1番の出口から北四番丁通りに出てそのまま東(宮町)方向に2辻半(徒歩5分)、勝山公園の手前左手にある3階建ての建物です。

参加費：300円

主催：宮城女性九条の会(仙台市青葉区上杉2-1-10 仙台YWCA会館内)

連絡先：☎022-248-3718(一戸) または 271-8087(岡)

《講師プロフィール》

1948年 仙台に生まれる。

1971年 出版社に入社。以降、労働組合運動に関わる。日本出版労働組合連合会仙台地域協議会議長、同東京西部地域協議会議長代行等を歴任。現在、同仙台地域協議会委員、宮城マスコミ文化共闘会議副議長。みやぎ憲法九条の会事務局員。日本ジャーナリスト会議会員。